リーディングDXスクール事業　【実践事例】　相模原市立津久井中央小学校

【取組内容】単元の情報を整理することによる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

１年　国語科「たぬきの糸車」

「デジタルホワイトボードソフト」を活用し、内容や言葉を１枚のシートにすることで情報が分かりやすいようにした。振り返りはスプレッドシートを活用し、書くことに時間を費やさないようにした。

＜教師の変容＞

発達の段階において様々な点で支援を要するため、時間がかかっていた。単元の情報を１つのシートにまとめることで、子どものつまづきを支援することができ、めざす目標に向かってしっかりと時間を取ることが可能となった。

＜児童の変容＞

「いつ・どこで・だれが」などワークシートの記入に時間がかかったり、教科書やノート、ワークシート等、単元に関する情報が様々な箇所に分かれていたりすることで、情報量が多く整理ができないことが見受けられた。

ICTを活用したことで挿絵や関連する言葉を直感的に移動させるだけで短時間で自分の考えを表現できた。また、振り返りをプルダウン形式にしたことで表現をすることに抵抗をなくすことができ、他者参照もできるようにしたことで、友だちのよさを見つけるきっかけにもなった。